

医療安全研修会 (Web 配信)

●日時：令和8年11月25日(水) 18:30~20:10

●参加費：会員（東京都病院薬剤師会・日本病院薬剤師会・東京都薬剤師会）…… 800 円
非会員 …… 1,600 円

※受講の受付・参加費の支払いはWEB決済システム「イベントペイ」を使用します。

●プログラム

1. 18:30~18:40 情報提供『ミネブロ錠について』 第一三共株式会社
2. 18:40~20:00 『医療安全の基礎（概論）を知ろう』（各20分）
『医療安全について～安全文化、医療安全の歴史、インシデントの考え方～』
日本医科大学多摩永山病院 薬剤部 菅谷 量俊 先生
『個人情報の取り扱いについて～電子処方箋、オンライン資格確認、情報漏洩防止～』
東京慈恵会医科大学西部医療センター 薬剤部 奥津 利晃 先生
『インシデント報告の活用について～報告の質向上、再発防止策、分析手法～』
公益財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院 医療マネジメント室 金内 幸子 先生
『医療コミュニケーションについて～常識のズレ、明確な伝達、メンタルモデル～』
聖路加国際病院 医療安全管理室 川名 賢一郎 先生
3. 20:00~20:10 質疑応答

●申込 URL：https://eventpay.jp/event_info?shop_code=9710578846909564&EventCode=C312604603

●申込締切：令和8年11月15日（日）（定員に達し次第受付終了）

●募集人数：150名（先着順）

●受講認定（予定）：日病薬病院薬学認定薬剤師制度1単位（研修番号IV-1）

●注意事項：

- ・受講の受付・参加費の振込に関しては「イベントペイ」からメールが届きます。ドメイン指定等されている場合は「@eventpay.jp」ドメインのメールを受信できるよう、事前に設定をお願い致します。
- ・Zoomを使用したWeb配信となります。安定した通信環境が準備できる場所で視聴してください。尚、受講者側の通信環境の影響で接続ができない場合については、当会で責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。
- ・視聴にかかる通信費は、受講者自身でご負担ください。
- ・当日の視聴URLは、受講が確定した方にのみメールで連絡いたします。
- ・研修単位は、従来の研修シールが廃止となり、日病薬病院薬学認定薬剤師研修支援システム「HOPESS（ホープス）」で取得できるようになりました。
- ・HOPESSは、日本病院薬剤師会会員管理システムの「薬剤師名簿登録番号」で紐づけされます。研究会開催までに、会員管理システムマイページにログインして、メールアドレスと薬剤師名簿登録番号を登録してください。
- ・HOPESSから他プロバイダー（日本薬剤師研修センター等）で使用する受講証明書を取得することができます。
- ・研修単位認定のため、受講者のログイン・ログアウトタイムを管理いたします。
- ・不測の事態等により研究会が中止になる場合は、東京都病院薬剤師会ホームページにてお知らせいたしますので必ずご確認ください。



医療や職場の「安全」は、すべての現場の職員によって築かれています。

「医療安全」の概念は、事故防止だけでなく、質改善や日常業務での成功を増やすことが広い意味での「医療安全」と見なされるようになっていきます。2011年に発表されたWHO患者安全カリキュラムに示されている医療安全教育の基本項目には、医療安全体制やインシデント報告等に関する理解のみならず、人間工学、システム思考、チーム医療に必要なノンテクニカルスキル、質改善手法などが示されています。

本研修会では、

- 医療安全の基本知識
- ヒューマンファクター と人間工学
- コミュニケーションを中心としたノンテクニカルスキル
- 抗がん薬や小児薬物療法での医療安全
- 事例を用いた危険予知訓練（KYT）

などを体系的に学べる **全3回シリーズ** を企画しました。

どの立場の方もわかりやすい内容としています。各施設で行う医療安全に関する研修や医薬品安全研修などのご参考としていただけたらと考えています。

皆様のご参加をお待ちしております！

第1回：2026年11月25日（水）『医療安全の基礎（概論）を知ろう』

医療安全全般、個人情報の取り扱い、インシデント報告の活用、
医療コミュニケーション（ノンテクニカルスキル）

第2回：2027年2月予定『医療安全の実践的なスキルを知ろう』

抗がん薬の医療安全、小児薬物療法の医療安全、誤投与の事例①（KYT）
毒物・劇物・規制薬・オーバードーズの対応

第3回：2027年5月予定『医療安全に繋がる資質・能力を知ろう』

医療安全に関連する法律知識、医療安全工学（人間工学、システム思考）、
誤投与の事例②（KYT）、公的機関が発信する安全情報の活用